

★当期に限り、会場が「ゆめりあ うじ」（JR宇治駅前）に
「開催曜日」が「金曜日・土曜日」に変更になります。

*これまでの会場「生涯学習センター」は 改修工事の影響で約6ヶ月休館となるため

令和八年度後期「宇治学コース」

◆受講料

各講座一回 七百元
五枚綴りチケット 二千八百円

《歴史コース》と《宇治学コース》
で使えます。

九月～十一月の講座日に販売

◆定員 先着 百名

◆申込み

講座日、会場で受付致します
事前申し込み不要

◆問合せ

☎ 090・8988・4383
宇治市民大学事務局 丸山

*「ゆめりあ うじ」には、専用の
駐車場はありません。公共交通
機関をご利用下さい。

《テーマ》 宇治・南山城、あれこれ逍遙

講座時間 午前10時～11時30分

9/26(土)	西方寺の弥陀次郎伝承と塔の島の石塔 龍谷大学名誉教授 小寺 慶昭さん
10/31(土)	古代寺院と中世寺院 ～南山城の様相から～ 同志社女子大学非常勤講師 中島 正さん
11/27(金)	神仏習合と僧形の八幡神 京都橘大学文学部教授（学部長） 小林 裕子さん
12/18(金)	頼通と平等院 ～宇治はどう変貌したか～ 同志社大学歴史資料館教授 浜中 邦弘さん
1/30(土)	中世王朝物語『木幡の時雨』 ～出会いの場・木幡～ 京都橘大学文学部教授 野村 倫子さん



古典文化ゆかりの地－南泉房庭園跡*平等院南駐車場横
「宇治拾遺物語」序文に次の一節があります。「世の中に
宇治大納言と呼ばれる人物がいる。名を源隆国という。
年をとってからは、夏の暑さを避けて平等院の一切経蔵の
南山裾にある南泉房に滞在し、往来の人々から説話を聞き
とっていた。隆国が書き記した物語は伝えられませんが、
「宇治拾遺物語」「今昔物語」の母体となったと言われる。
「こぶ取りじいさん」など *案内板：宇治市教育委員会

宇治市民大学



会場 ゆめりあ うじ

市民による、市民と地域のための大学

（宇治市男女共同参画支援センター）

主催 宇治市民大学運営スタッフ会
共催 宇治市生涯学習センター

講師からのひとこと

9/26(土) 西方寺の弥陀次郎伝承と塔の島の石塔 小寺 慶昭さん
五ヶ庄の名刹・西方寺さんに、有名な「弥陀次郎伝承」が伝わります。淀の一口(いもあらい)村にいた「悪次郎」が、托鉢僧の額に焼け火箸を当てますが、後をつけていくと栗生の光明寺の釈迦如来像に焼き跡があるのを見て改心し、西方寺で仏道修行に励むという話です。彼はなぜ西方寺に来たのでしょうか。この伝承の成立過程と歴史的な意味を、塔の島に浮島十三重石塔が建てられた理由と併せて考えていきたいと思います。

10/31(土) 古代寺院と中世寺院 中島 正さん
～南山城の様相から～
木津川沿いの南山城には、飛鳥時代より多くの古代寺院が建立され、そのほとんどが古代豪族の経営した氏寺である。そもそも仏教を統制する「僧尼令」においては、私に道場を建てることは禁止されており、平安遷都以後これが徹底された。そして、氏寺の多くが、平安以後存続できずに廃絶していくのである。ところが、古代寺院から中世寺院へと変貌を遂げた一部の寺院は、生き残ることができた。その策とは？
南山城の様相から探してみたい。

11/27(金) 神仏習合と僧形の八幡神 小林 裕子さん
京都や奈良には仏像の優品が数多く伝えられる一方、神像はその存在事情のために接する機会が少なく、実態があまり知られていません。本講座では、神仏習合の思想を背景に成立した僧形八幡神像に注目し、快慶が制作した東大寺の作例をはじめとする絵画や彫刻をご紹介します。そのうえで造形的特徴や制作背景を知ることで、神像への理解を深めることを目指します。

12/18(金) 頼通と平等院 浜中 邦弘さん
～宇治はどう変貌したか～
藤原頼通が永承7(1052)年、宇治に平等院を創建します。極楽浄土を現世に具現したこの寺院造営を契機として、宇治は頼通一門の宗教的な空間へと形成されていきます。頼通は同時に藤原氏一門の宝物を平等院の経蔵に集約していきます。このことにより藤原氏のトップたる藤氏長者が頼通一門に継承され確立されることとなっていきます。頼通が一門に込めた生き残り戦略を垣間見てみましょう。

1/30(土) 中世王朝物語『木幡の時雨』 野村 倫子さん
～出会いの場・木幡～
『源氏物語』以降多くの物語作品が創作され、人々に親しまれていた。そのほとんどが散逸してしまい、現在残っている作品はわずか20作品程度であり、『木幡の時雨』もかろうじて散逸を免れた一作品である。王朝世界を志しながら、この物語の舞台は宇治の木幡に始まり、桜井・石山さらには有馬の湯から難波へと移動し、ようやく2人は再会する。しかし再会までの間にそれぞれが子供をもうけ、しかも2人とも当時珍しかった双子を得ているという天外な展開をし、めでたく地位を獲得していくことになる。『源氏物語』よりも、『源氏物語』に先行して流布していた継子いじめ型の『住吉物語』との関係が深い作品で、『住吉物語』が相愛の再会の場である住吉から作品に命名したのに対して、この物語は時雨に降られる木幡での出会いが作品名となっている。その「木幡」について、物語での描かれ方、また作品内での位相について紹介していく。